

2. センターだより

1. 情報メディアセンターにおける委員会活動

愛知大学情報メディアセンターには情報メディアセンター委員会があり、そのもとに名古屋センター委員会および豊橋センター委員会が置かれ、3校舎（名古屋，豊橋，車道）の管理，運営が行われている。

2004年度前期に開催された、各委員会の議事は次の通りである。

名古屋センター委員会

◇第1回 4月 8日

報告事項

1. 2003年度教員講習会および新システム説明会報告
2. 2004年度実習室使用状況について
3. 名古屋校舎派遣職員について
4. 車道校舎施設完成報告
5. 情報メディアセンター規定について
6. 卒業生のユーザアカウントについて
7. 新システム進捗状況について
8. 今後の検討課題

◇第2回 5月13日

1. 第6期システム 学生向けサービス案内について
2. 移動ゼミシステムの取り扱いについて
3. インキュベートルラボ工事について
4. メールアドレス申請について

報告事項

1. 個人情報の管理について
2. 2004年度公開講座について
3. 法学部購入資料について

◇第3回 5月26日

1. 図書館日曜開館に伴うメディアゾーンの扱いおよび月曜休日の授業日について
2. インキュベートルラボ工事について
3. 旧システム引き上げパソコンについて
4. 2004年度ソフトウエア費について
5. 身障者のための中古パソコン寄付依頼について
6. 車道教員教材作成ルーム使用の申し出について
7. 車道講師控室情報環境について

報告事項

1. 2004年度公開講座について
2. 相談員研修会について

3. COM表紙デザインおよびタイピングソフト改良者への感謝状送付について

豊橋情報メディアセンター委員会

◇第1回 4月15日

1. 第6期システムの新サービス開始について
2. 2004年度情報メディアセンター講習会実施計画について
3. 相談室・教員研究室改装計画と講師控室の運用
4. その他

報告事項

1. 第6期システムの稼働・進捗状況について
2. 豊橋メディアセンターのスタッフ体制について
3. 2004年度実習室利用状況について
4. 教員講習会・新システム説明会 実施報告について
5. 2004年度予算概要について
6. その他

◇第2回 6月 3日

1. 教員研究室・相談室改装について
2. 420教室等セキュリティキーの設置について
3. 車道開設記念イベント(6/24、7/24)の開催について
4. その他

報告事項

1. 情報ゼミ室設置申請の経緯について
2. 新システム稼働状況について
3. 無線LAN、VPN等申請状況、講習会参加状況について
4. 2003年度決算について
5. 私情協フォーラム参加要請(6/11～6/12)について
6. ドキュメントスキャナ、e-learningコンテンツ作成システムなど紹介について

て
7. その他

合同情報メディアセンター委員会

◇第1回 7月24日

1. 情報メディアセンター運營業務・組織について
2. 第6期システム導入作業について
3. 紀要COMの書式等一部修正について
4. メディアゾーン等におけるゲーム禁止について
5. 各種補助金制度について
6. 所長・副所長の任期満了について
7. その他

2. 情報メディアセンター主催行事

講習

◆名古屋

開講日	講習会名	教室	参加人数
4月14日(水)	電子メール講習会	第2実習室	15人
4月15日(木)	新システム講習会	第2実習室	中止
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		10人
4月19日(月)	新システム講習会	第2実習室	2人
4月21日(水)	電子メール講習会	第2実習室	13人
4月22日(木)	電子メール講習会	第2実習室	12人
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		14人
4月26日(月)	電子メール講習会	第2実習室	10人
4月28日(水)	電子メール講習会	第2実習室	14人
5月6日(木)	電子メール講習会	第2実習室	9人
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		6人
5月10日(月)	電子メール講習会	第2実習室	16人
5月13日(木)	レジュメの書き方(Word入門)	第2実習室	13人
5月17日(月)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	14人
5月19日(水)	電子メール講習会	第2実習室	12人
5月20日(木)	電子メール講習会	第2実習室	9人
	PowerPoint講習会		6人
5月24日(月)	レポート/卒論の書き方(Word応用)	第2実習室	8人
5月26日(水)	電子メール講習会	第2実習室	14人
5月27日(木)	電子メール講習会	第2実習室	13人
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		12人
6月2日(水)	電子メール講習会	第2実習室	5人
6月3日(木)	レジュメの書き方(Word入門)	第2実習室	3人
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		6人
6月7日(月)	電子メール講習会	第2実習室	5人
6月9日(水)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	10人
6月10日(木)	電子メール講習会	第2実習室	2人
	レジュメの書き方(Word入門)		1人
6月14日(月)	電子メール講習会	第2実習室	8人
6月16日(水)	電子メール講習会	第2実習室	9人
6月17日(木)	レポート/卒論の書き方(Word応用)	第2実習室	2人
6月21日(月)	PowerPoint講習会	第2実習室	中止
6月24日(木)	レジュメの書き方(Word入門)	第2実習室	3人
	電子メール講習会		11人
6月28日(月)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	13人
7月1日(木)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	3人
7月5日(月)	電子メール講習会	第2実習室	14人
7月7日(水)	レジュメの書き方(Word入門)	第2実習室	2人
7月8日(木)	電子メール講習会	第2実習室	13人
	一般常識としての表計算実習(Excel入門)		10人
7月12日(月)	PowerPoint講習会	第2実習室	2人
7月14日(水)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	13人
7月21日(水)	電子メール講習会	第2実習室	15人
7月22日(木)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	6人
	電子メール講習会		15人
7月29日(木)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	第2実習室	11人

◆豊橋校舎

開講日	講習会名	教室	参加人数
5月20日 (木)	無線LAN講習会	413	3人
5月27日 (木)	無線LAN講習会	413	1人
6月3日 (木)	無線LAN講習会	413	1人
6月10日 (木)	無線LAN講習会	413	3人
6月16日 (水)	無線LAN講習会	413	2人
6月17日 (木)	無線LAN講習会	413	5人
6月24日 (木)	無線LAN講習会	413	1人
7月23日 (金)	無線LAN講習会	424	2人
6月2日 (水)	電子メール講習会	523	3人
6月11日 (金)	電子メール講習会	423	4人
6月15日 (火)	電子メール講習会	421	1人
6月22日 (火)	電子メール講習会	421	0人
7月2日 (金)	電子メール講習会	423	1人
7月7日 (水)	電子メール講習会	523	2人

3. 情報メディアセンター委員会構成員

情報メディアセンター委員会

役職名	所属	身分	氏名	
所長	短期大学部	助教授	龍 昌治	
副所長	法学部	教授	坂東 昌子	
委員	豊橋センター	経済学部	教授	蔣 湧
		文学部	助教授	中尾 浩
		国際コミュニケーション学部	教授	トーマス・M・グロース
		短期大学部	教授	武藤 明弘
	名古屋センター	法学部	教授	太田 明
		経営学部	助教授	河田 賢二
		現代中国学部	教授	土橋 喜
		法科大学院	教授	伊藤 博文

メディアセンター事務室

情報企画課	課長	中村 直美
	S E	秦 俊一郎
		金子 善一郎
		石原 有希子
豊橋情報メディアセンター	係長	水谷 伸司
	S E	多賀 友洋
名古屋情報メディアセンター	係長	鈴木 真弓
	S E	小野 秀之

愛知大学におけるコンピュータウィルスの動向及び対策について(2) ～電子メール編②～

1.はじめに

前回、システム更新後の2004年4月及び5月に発見された電子メール添付のコンピュータウィルスの動向について紹介しましたが、ウィルスの特徴について説明が不十分でした。

今回は、もう一度、最近のコンピュータウィルスの特徴について復習したいと思います。

2.最近のコンピュータウィルスの特徴について

コンピュータウィルスの感染経路について、90年代はファイルウィルスやマクロウィルスが主流で、FDなど物理的なメディアを経由するものが主流でした。しかし、1999年に電子メールで広がるウィルスが広がり、以降電子メールを利用したウィルスが主流となっています。

対策として多くのプロバイダ(愛知大学も含む)では、メールサーバ側で電子メールのウィルスチェックを行うようになりました。しかし、その後、差出人アドレスを詐称するウィルスが流行し、感染したメールの差出人のPCが感染してないにもかかわらず、ウィルスに感染したという内容の電子メールを受け取ることがあります。ですから、このようなメールを受け取っても慌てずに、念のため、ウィルス対策ソフトで感染していないか確認してください。対策が行われているPCでしたら、多く場合問題はありません。

3.対策について

本学では、メールサーバに対して、ウィルス対策を行っております。しかし、主流ではないといっても電子メール以外の経路で感染する可能性があります。そのためにも、必ずウィルス対策ソフトの導入を怠らないようにしてください。また、ウィルスは日々進化していますので、定義ファイルの更新も忘れず行ってください。

情報処理推進機構では、感染防止に以下の7点に注意することを奨励しています。大変基本的なことですが、怠ると感染の確率が非常に高くなりますので、確認をお願いします。

- 1) 最新のウィルス定義ファイルに更新し、ワクチンソフトを活用すること
- 2) メール添付ファイルは、開く前にウィルス検査を行うこと
- 3) ダウンロードしたファイルは、使用する前にウィルス検査を行うこと
- 4) アプリケーションのセキュリティ機能を活用すること
- 5) セキュリティパッチをあてること
- 6) ウィルス感染の兆候を見逃さないこと
- 7) ウィルス感染被害からの復旧のためデータのバックアップを行うこと

4.最後に

コンピュータウイルスは日々進化しています。そして、以前では考えられないくらい早く広がりを見せています。コンピュータは非常に便利なものですが、このような面もあることを頭の片隅に置いて利用してください。

参考

コンピュータウイルスの解説

- IPA(情報処理推進機構) の URL <http://www.ipa.go.jp/index.html>
- IPA ウィルス対策スクールの URL
<http://www.ipa.go.jp/security/y2k/virus/cdrom/index.html>

主なウィルス対策ソフトメーカー

- シマンテック社の URL <http://www.symantec.com/region/jp/index.html>
- 日本ネットワークアソシエイツ社の URL <http://www.nai.com/japan/>
- トレンドマイクロ社の URL <http://www.trendmicro.com/jp/>

(情報企画課 金子善一郎)

5. 編集後記

ブロードバンドの急速な普及により、e-learning システムの導入が盛んになり、企業内教育をはじめとして教育機関などでも広く活用されるようになった。e-learning をビジネスとする企業も益々増加しており、中には専門としている企業もある。Web には「e ラーニングマガジン」のような電子雑誌も公開され、e-learning に関する様々な情報を提供している。

e-learning という言葉も違和感なく日常的に使われるようになってきている。e-learning という言葉には広い意味が含まれており、日本語では電子教育と訳されることもある。この場合には主にパソコンを利用して行う教育全般を含んでいるように感じる。しかし e-learning にはネットワークを重視する考え方も重要であり、こちらのほうが主流と思われる。その場合にはインターネットや衛星通信などの情報通信ネットワークとパソコンなどを活用して行われる教育形態を意味しており、「いつでも・どこでも・必要なことを学習できる」ことが特徴になる。

e-learning の考え方は学習形態を限定するものではなく、様々なシステムが実用化されている。遠隔地間をテレビ会議システムによって結び、リアルタイムに双方向的な授業を行う遠隔授業システムや、ビデオ映像や Web コンテンツとして作成された教材を、学習者が好きなときに好きな場所からネットワーク経由で利用する Web ラーニング(あるいは Web Based Training) システムなどが広く使われており、今後もこれまで以上に普及することが見込まれ、将来的にもいろいろな可能性を持っている。

e-learning のコンテンツを作成するソフトも製品化されており、パソコンに慣れた教師が自分でコンテンツを開発することもやりやすくなってきた。しかし単なる試行錯誤に終わらせないために、分かりやすく教育効果のあるコンテンツをいかにデザインするかという課題や、どのような場面でどのように活用すれば、従来の方法以上の効果が得られるのかということを見極めることも必要である。

本号における望月らの論文は、中国語学習における e-learning システムについて、授業支援の側面を重視して独自に取り組んだものであり、今後の実用化を目指した研究開発が期待される。

なお前号(26号)の巻末に記載された情報メディアセンター委員会構成員のページにおいて、2004年度から新たに開設された法科大学院選出の伊藤博文教授のお名前が記載漏れしておりましたので、お詫びして訂正いたします。

(K. D)

愛知大学情報メディアセンター紀要COM 原稿募集要項

情報メディアセンター紀要「COM」は、年2回発行され、下記の要領で原稿を募集しています。詳細につきましては情報メディアセンターまでお問い合わせください。

1. 著者の資格

- (1) 本学教職員および本学教職員との共著者
- (2) 本学非常勤教員
- (3) 本学学生（教員の推薦があるものに限る）
- (4) 編集委員会が認めたもの

2. 投稿原稿の内容

投稿原稿は未発表のもので、下記に關係する内容とする。

- (1) 情報教育に関する理論と実践
- (2) 情報科学や情報工学に関する理論とその応用
- (3) 情報システムに関する調査、分析、理論
- (4) コンピュータを活用した研究、教育、および業務等の実践報告
- (5) 本学のコンピュータ利用に関して必要と思われる情報処理センターの報告
- (6) その他（編集委員会が認めたもの）

3. 投稿原稿の種類

投稿された論文は編集委員会によって、下記のように区分して掲載する。

- (1) 論文
- (2) 研究ノート
- (3) 解説
- (4) COM コーナー
- (5) その他（編集委員会が認めたもの）

※なお解説については、新たな研究動向や新技術の解説とその意義や影響などとする

4. 投稿原稿の体裁

- (1) 和文・英文を問わないが和文が望ましい。
- (2) 原稿用紙は B5 サイズとし、1 ページに 45 字×35 行程度（1575 字程度）で印字し、文字サイズは 10 ポイントとする。
- (3) 原稿の冒頭にはタイトル（サブタイトルも含む）、所属、著者名を表記する。
- (4) 裏表紙（目次用）として、タイトル、著者名の英文を添えること。
- (5) 完成された投稿原稿のみを受理する。
- (6) 複製印刷が可能ないように原稿を仕上げる。こと。（手書きの原稿は認めない）
- (7) 美しく仕上げるために、フロッピーを添えるのが望ましい。
- (8) 提出するフロッピーには、ファイルを作成したソフト名および投稿原稿のファイル名を明記すること。使用ソフトは Microsoft Wordまたは PDF 形式が望ましい。
（使用ソフトによっては、図表の部分が複製印刷となる場合もある）
- (9) 著者は連絡先（ゲラ等の送付先）の住所、電話番号等を明記すること。

5. 校正

- (1) 校正は著者校正を2回とする
(フロッピーのままですべての校正を行わない場合は、その旨事前に連絡する)
- (2) 校正段階での内容の変更は、総ページ数に変更しない範囲で行なうこと。
- (3) 別刷りは論文ごとに各30部までは無料とする。
- (4) 著者には紀要を2部進呈する。ただし希望があれば10部を限度として進呈する。

6. 著作権

- (1) 提出された論文の著作権は、原則として愛知大学情報メディアセンターに属し、無断で複製あるいは転載することを禁じる。
- (2) 論文作成に際して用いたコンピュータソフトや映像ソフト等の著作権に関する問題は、著者の責任において処理済みであること。他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。
- (3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合、著者がその責を負う。
- (4) 著作人格権は著者に属する。

以上

申し込み・問い合わせ： 愛知大学情報メディアセンター

TEL : 052-937-8120(内線 3100)

FAX : 052-937-8121

愛知大学情報メディアセンター紀要 COM〔コム〕
Vol. 15 No.2 第27号

2005年3月25日 印刷

2005年3月31日 発行

編集 愛知大学情報メディアセンター
「COM」編集委員会

発行 愛知大学情報メディアセンター

(名古屋) 愛知県西加茂郡三好町黒笹370
〒470-0296 TEL (0561) 36-1117 (直通)
FAX (0561) 36-2781

(豊橋) 豊橋市町畑町1-1
〒441-8522 TEL (0532) 47-4124 (直通)
FAX (0532) 47-4125

(車道) 名古屋市東区筒井2丁目10-31
〒461-8461 TEL (052) 937-8120 (情報企画課直通)
FAX (052) 937-8121

印刷 有限会社 三星印刷

情報メディアセンター教育用パソコン 機種および設置台数

○車道校舎

設置場所	機種	台数
メディアゾーン	HITACHI FLORA 310	74
K 7 0 1	TOSHIBA Satellite J11	35
K 8 0 2	TOSHIBA Satellite J11	35
K 8 0 4	TOSHIBA Satellite J11	50
車道 計		194

○豊橋校舎

設置場所	機種	台数	
情報メディアセンター (4号館)	420教室	HITACHI FLORA 310W	78
	421教室	HITACHI FLORA 330W	52
	423教室	HITACHI FLORA 330W	58
	424教室	Toshiba dynabook SatelliteJ11	50
	413教室	HITACHI FLORA 350W	25
5号館	514教室	Toshiba dynabook SatelliteJ11	20
	523教室	HITACHI FLORA 330W	50
大学院	HITACHI FLORA 330W	4	
研究所	HITACHI FLORA 330W	9	
豊橋 計		346	

○名古屋校舎

(台)

設置場所	機種	台数	
情報メディアセンター	第1実習室	HITACHI FLORA 330W	60
	第2実習室	HITACHI FLORA 310W	45
	第3実習室	HITACHI FLORA 350W	20
	オープンフロア	HITACHI FLORA 330W	18
中央教室棟	マルチメディア教室	HITACHI FLORA 310W	60
東教室棟	E201教室	HITACHI FLORA 330W	60
	E202教室	HITACHI FLORA 330W	40
大学院	HITACHI FLORA 330W他	7	
研究所	HITACHI FLORA 330W	13	
名古屋 計		323	

総合計 台数

863

マルチメディアコーナー・メディアゾーン

○豊橋校舎

設置場所	機種	台数	
図書館棟 1F	メディアゾーン	HITACHI FLORA 350W 他	30
計		30	

○名古屋校舎

(台)

設置場所	機種	台数	
図書館棟2F	メディアゾーン	EPSON TYPE-SZ他	75
計		75	

Journal of Aichi University Media Center
vol.15 No.2

CONTENTS

Preface Vice Director: Masako Bando

Article

Experimental Multimedia System for Chinese Conversation Learning
Developing HanyuPlayer using VisualBasic
..... Shinta Mochiduki, Konomu Dobashi, Liu Bailin 1

Miscellaneous..... 29

Editorial 36

Aichi University Media Center

COM

